

TAKAIRA
ZUKA
NIPO
CENTER
ANNUAL
REPORT
2022

2022年度事業報告書
認定NPO法人 宝塚NPOセンター

2022.4.1→2023.3.31

もくじ

宝塚NPOセンターの理念と取り組み …03

数字で振り返る2022年度 …04

取り組み一覧 …05

実施事業のご報告 …07

実施事業1. ツナガリとニギワイをつくる
インタビュー 増田 豊彦さん

実施事業2. ハタラクをささえる
インタビュー 杉本 圭さん

宝塚NPOセンターならではの事例紹介 …19

シングルマザー支援に私たちのスキルを活かす
With関係者インタビュー 秋山 怜史さん

決算などのご報告 …21

2023年度 特定非営利活動に係る事業計画

2022年度 貸借対照表／活動計算書

2023年度 活動予算書

2022年度 支えてくださった皆さん

ボランティア・職員・役員一覧・関連Webサイト情報

多くの皆さまのご支援のもと 2022年度事業を無事に終えることができました。 ありがとうございました。

理事長に就任し4年が過ぎ、これまでの取り組みが徐々に形になり始めていることを実感する1年となりました。

牧里前理事長の「現場をよく理解している人が理事長として采配をするべき」との言葉から始まった変化は、居住支援と女性の就労支援から派生した『シングルマザーハウスWith』、就労支援事業の相談者をクリーンクルーとして雇用し自主事業としてスタートさせた『Say!So!事業』、まちのにぎわいをつくりたいオーナーを生み出す『シェアカフェ事業』のような自主事業が試行錯誤しながら形になろうとしています。

さて、お手元の事業報告書は例年の各事業をご報告する形式とは異なり、各事業の持つさまざまな機能がどのように『まちづくり』や『しごとづくり』と関係しているかを見ていただけるように構成をいたしました。多様な事業を実施している団体に見えますが、ただ一つの想い「人と社会をつなぎ、それぞれのHAPPYを応援する」につながっております。2023年度もこの想いを大切にスタッフ一同歩んでまいります。引き続きご支援をお願い申し上げます。

なかやま みつこ
理事長 中山 光子



宝塚NPOセンターの理念と取り組み



私たちが取り組む理由

ツナガリとニギワイを つくる事業に取り組む理由

私たちは、地域のことはその地域の住民が自分たちで考え行動することで住みやすいまちになると思っています。そのために、地域のICT化、居住支援、シニアの創業支援やチャレンジショップなど、すべての事業で地域に入り一緒に取り組んでいます。

時には失敗をして上手く進まない時もありますが、お互い助け合いながら乗り越えようとしています。

今後も住みやすいまちをつくれるように、地域の人と一緒に前に向かって進んでいきます。

ハタラクをささえる 事業に取り組む理由

私たちは、不登校や就活に失敗、病気、介護などのさまざまな理由で社会から孤立している10代～80代までの方々に関わっています。本人のやりたいことや何ができるかを一緒に見つけ出すことで、寂しさから抜け出せるのではないかと考えています。

ボランティア活動・職場体験を通して地域の事業者や住民の方々と手を携えることで社会とのつながりを感じてほしい、そしてお互いを知ることでそれぞれが成長し、みんなが笑顔になれるよう日々活動しています。

数字で振り返る

宝塚NPOセンター2022年度の活動

1年間の相談件数

5,108件

2022年度に受けた相談件数を合計すると、
5,108件に上ります。
1年間を通じて、たくさんの相談をいただきました。

相談件数の内訳

運営相談件数

817件

起業相談件数

207件

就労相談件数

4,028件

居住相談件数

56件

雇用創出数

445人

2022年度は445人の
雇用を生み出しました。

ボランティア数

56人

56人のボランティアに、
私たちの活動をサポートしていただきました。

開催講座数

283講座

複数の事業で開催した講座は、合計で283回。
多くの方にご参加いただきました。

取り組み一覧

わたしたちが取り組んでいる事業を一覧できるカタチにまとめました。これらの取り組みはすべて、ただ一つの想い「人と社会をつなぎ、それぞれのHAPPYを応援する」につながっております。

ツナガリとニギワイをつくる取り組み一覧

にぎわい づくり P.08		シニアの 生きがい事業 [自主事業]	シェアカフェ 起業支援事業 [自主事業]	
生き生き とした セカンド ライフ P.09	創業支援と 地域活動支援事業 [三田市]		生きがいしごと サポートセンター 事業 [兵庫県]	スマホサポーター 養成講座 [三田市]
チャレンジ 支援 P.10		市民活動 促進支援事業 [宝塚市]	シェアカフェ 起業支援事業 [自主事業]	
住まいと 安心づくり P.11	居住支援事業 [国土交通省]			
みんなが 取り組む まちづくり P.12	ひょうごアドプト 活動促進業務 [兵庫県]	市民活動 促進支援事業 [宝塚市]	市民 アンケート調査 [宝塚市]	
これからの 地域参加 P.13			コミュニティ・ビジネス ICT 活用促進事業 [兵庫県]	スマホサポーター 養成講座 [三田市]



ハタラクをささえる取り組み一覧

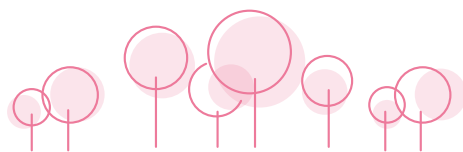
シングル マザーハウス [休眠預金助成]	ファースト ステップ P.16	地域若者 サポート ステーション 事業 [厚生労働省]	就労準備支援 事業及び 生活困窮者 自立相談 支援事業 (就労支援) [宝塚市]	若者就労 支援事業 [宝塚市]
	ジョブ トレーニング P.17			Say!So! 事業 [自主事業]
	リスタート P.18	女性のための 就労支援事業 [宝塚市]	シングル マザーハウス [休眠預金助成]	生きがいごと サポートセンター 事業 [兵庫県]



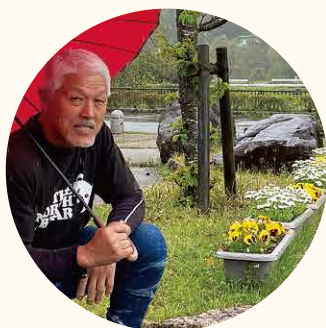
実施事業 1.

ツナガリとニギワイをつくる

自分のやりたいことでこれからのまちをつくる人を応援し、楽しみながらその想いを実現できる社会を広げ、みんなのHAPPYを目指します。



小野道の樹広場同好会 増田さんに聞きました



ひょうごアドプト小野道の樹広場同好会
花々クラブ
空き家に住もうプロジェクト 代表

ますだ とよひこ
増田 豊彦さん

三田市役所を9年前に定年退職後、篠山市の障害者施設で5年間勤められました。2021年から2年間、小野道の樹広場同好会の代表として地域緑化などに取り組む中で、『花々クラブ』を立ち上げ、活躍の場を広げられています。その他にも、小野地区の空き家問題などに取り組まれています。

2021年にひょうごアドプト※団体『小野道の樹広場同好会』の代表になり、清掃や草刈りだけだった活動に、花づくりの活動を加えようと区民に呼びかけ、『花々クラブ』を立ち上げました。バス停にプランターを並べ、季節の花を植え、水やりなどを10名ほどの仲間が楽しみながら活動しています。この他にも空き家が多くなった小野地区に若い転入者を呼び込もうと、『空き家に住もうプロジェクト』という活動をしており、移住希望者に空き家を案内したり、小野の魅力を発信しています。地域活動は「楽しみながら継続する」ことが大事だと考えています。常にメンバー同士の交流や対話などを重視し、人と人との交流の中で、活動の輪が広がることを願っています。

宝塚NPOセンターには、アドプトの資材提供だけではなく、NPO団体立ち上げや空き家問題でも相談に乗ってもらい、問題解決のサポートをいただいています。行政では行き届かないところにも柔軟に対応してもらえるので、大変助かります。宝塚NPOセンターにはその特徴を発揮し、これからも支援をお願いしたいと思っています。

※ひょうごアドプトとは県が管理する河川・道路等活動団体が清掃美化活動を行う際に、県・市町が用具の提供等を行い支援する制度です。



にぎわいづくり

人が行き交う場をつくることで
まちのにぎわいを生み出し、活気あるまちをつくります。



取り組み理由

2022年は、新型コロナウイルスの脅威も徐々に収まる気配が見え、地域が少しずつ動き始めた年でした。とはいえ、マスク越しの会話やソーシャルディスタンスが推奨され、一人ひとりが思い通りに行動できない状況は続いています。その中で、少しずつでもまちのにぎわいを取り戻し、一人ひとりがやりたい姿で社会参加できるようにするために、私たちに何ができるのかを考えました。

2022年度のポイント

- コロナ禍が少しずつ収まる気配の中、まちのにぎわいを取り戻すために何ができるか考えました。
- まちの中の古い建物をリノベーションして生き返らせただけでなく、社会的に意義のある事業に活用したことで地域に少しずつ新しい変化をもたらしました。

関連事業

シニアの生きがい事業

シニアの方が孤立せず安心して参加できる場が持てるよう、毎月1回『うたごえ広場』を開催しました。月1回の交流を習慣化していただくよう、連絡が途絶えていた方にも電話をし、くらしの様子をお聞きし開催の案内をしました。その中で「連絡ありがとう」と声をかけてくれる方もおられ、つながりをつくる場の重要性を再確認しました。



シェアカフェ起業支援事業

コロナ禍の影響もありオーナー不在の曜日がありましたが、その時こそ積極的にオーナー一人ひとりと向き合いました。また、開店したお店の集客の助けとなるようにInstagramを開設。オーナーの記事をシェアするなど、Instagram内のつながりからPRできるように工夫をした結果、今ではすべての曜日でオーナーが営業をされています。



シングルマザーハウス

『シングルマザーハウスWith』1階にコミュニティルームをつくりました。放課後の子どもや地域の方々の居場所として使っていただくことで、地域のヘソのような役割を果たしていきたいと考えています。残念ながら今年度はそこまで進みませんでしたが、2023年度は大学生やシニアボランティア、近隣の企業の方々とワークショップをしながら進めていきます。





生き生きとしたセカンドライフ

起業、地域活動、趣味など、高齢者が人や社会とつながることで、充実したセカンドライフを送れるよう支援します。



取り組み理由

4人に1人が75歳以上という『超高齢化社会』では、自分の価値観を持ち、定年退職後や還暦を過ぎても趣味やさまざまな活動に果敢にチャレンジするアクティブシニアが社会をつくっていくはず。シニア世代がセカンドライフにおいて、ライフスタイルに合った『多様で柔軟な』働きかたを実践するための、あるいは現役時代に培った知識と経験を活かすべく起業するための講座を実施することで、地域課題解決に貢献でき、心身の健康につながるよう支援します。

2022年度のポイント

- 創業支援と地域活動支援の各事業で、受講生同士のつながりやコースを超えたつながりが多く生まれました。
- うたごえ広場ではボランティアで運営側のお手伝いをしてくださる方もおられ、参加者に支えられて開催ができました。

関連事業

創業支援と地域活動支援事業



三田市のシニア16人が、これからの日々で『やりたいこと』を実現するために『創業支援コース』と『地域活動コース』に分かれ、半年間学びました。最後の事業計画発表会では、コースを超えたつながりができ、新たな地域の担い手が生まれる予感がしました。

シニアの生きがい事業

開催回数：10回
参加人数：延べ209人

『うたごえ広場』は、参加された方が楽しみや生きがいを感じられるように取り組んでいます。今では、ボランティアで運営側のお手伝いをしてくださる参加者もあり、歌だけでなく新しい社会参加の場にもなっています。参加者同士の声かけもあり、全員でつくりあげる場となっています。

スマホサポーター養成講座



三田市のシニアの方が友人や仲間にスマホの使い方を教え、地域デビューするための講座です。シニアサポーター養成のため『iPhoneとAndroid両方の操作方法』から『教えるための技術』まで全3回の講座を実施しました。受講生同士の交流も生まれ、今後のサポート活動が楽しみです。

生きがいしごとサポートセンター事業



高齢者が持つ豊富な知識や経験を活かし、起業や地域活動などセカンドライフにおける多様な働きかた、生きかたを創造し、社会で活躍できるよう支援しました。現役時代のスキルと人脈で起業、受講者同士でイベント開催など『やりたいこと』での活躍が始まっています。



チャレンジ支援

起業、地域活動など誰もが『やりたいこと』にチャレンジすることで、社会参加の新たなステージに立つための支援を行います。



取り組み理由

『人生100年時代』『ICT』の急速な普及など社会環境の目まぐるしい変化は、人々の『新しい社会参加のカタチ』を促進しています。そのような社会環境の中で『やりたいこと』を見出し、実現化に向けて動き出す人々があります。その動き出す人を応援し、『自分たちで社会をつくる意識』を醸成していきます。

2022年度のポイント

- 起業相談では、13団体が新たに設立。そのうち7団体がシニア世代による設立でした。
- シェアカフェでは、新規契約（12名）のオーナー様の立ち上げをサポートし、一心に起業する姿勢に寄り添うことの大切さを再確認しました。

関連事業

創業支援と地域活動支援事業

三田市のシニアの起業に寄り添うためのカリキュラムとして、起業の基本や自分のキャリアや経験を振り返り、およそ半年間学びました。最終プログラムの計画発表会では自分の事業計画を発表しました。講座終了後も引き続き皆さんのチャレンジを支援していきます。



市民活動促進支援事業

地域活動やコミュニティビジネスを新たに起こしたい方に対して、想いや計画を聞き取りながら実現するための相談を受けました。活動に必要なヒト・モノ・カネ・ネットワークの情報提供も行い、チャレンジを応援しました。



生きがいごと サポートセンター事業

多様な働きかたを推進すべく、シニア世代や女性を対象とした起業講座を実施し、自身のキャリアを考える機会を提供しました。また、起業相談の実施や外部専門家と連携し、起業支援に取り組みました。結果、13団体が新たに設立され、うち7団体がシニア世代による設立でした。



シェアカフェ起業支援事業

今年度はキッチンとホールの物品整理を実施し、店内の無駄なものや買い替えが必要なものの見直しをしました。その過程の中で一心に起業を志すオーナーたちの想いに接し、考えさせられ、オーナーたち一人ひとりに寄り添うことの大切さを感じ、これからの対応に反映しようと思います。





住まいと安心づくり

生活の土台となる住まいの確保と、
その生活を入居者らしく過ごせるようサポートします。



3 すべての人に
健康と福祉を



5 ジェンダー平等を
実現しよう



11 住み続けられる
まちづくりを



取り
組
む
理
由

生活の土台となる『住まい』が安定しなければ、生活が成り立ちません。まずは生活のスタートに立つために、さまざまな理由で住まいの確保が困難な方々に対して、その人に合った『住まい』を確保します。また相談者が入居に至った場合は、少しでも『安心』して暮らしてもらえよう、一人ひとりに寄り添った支援をし、入居者をサポートしています。その人らしく日々の生活が送れるように応援します。

2022年度のポイント

- 36件の相談を受け、10家族が新たな住居に入居され、住まいに対しての安心が生まれました。
- 住まいの安心だけでなく、就労支援や食料支援などを通じシングルマザーと触れ合うことで『心の安心』をつくる努力をしました。

関連事業

居住支援事業

居住支援法人格を取得して1年が経ちました。行政や個人からの問い合わせがあり、さまざまな事情で住まいの確保が困難な相談者の対応をしています。今年度の相談件数は36件、入居決定が10件でした。また入居のための支援だけでなく、入居後の定期的な連絡や食料支援など私たちならではの支援を行っています。相談者の話に耳を傾け、気持ちに寄り添って一緒に探していくことが大切なことだと実感しています。



シングルマザーハウス

シングルマザーの推計年収は370万円（2020年度）です。そのため安価でキレイな住宅を提供したいと考え、築50年のアパートをリノベーションし、『シングルマザーハウスWith』をつくりました。子どももママもプライベートが確保できる広さにこだわり、40㎡の部屋を用意しました。また、食料支援としてコープこうべから受け取る食材を料理できるキッチンにもこだわり、安心できる空間を提供しました。





みんなが取り組むまちづくり

誰もが参加でき、対話を交わし、
やりたいことで一歩を踏み出せる持続できるまちづくりに取り組みます。



取り組む理由

私たちが住むまちには、さまざまな立場や環境にある方が暮らしています。だからこそ人それぞれに見えている風景には違いがあり、気づくことはそれぞれです。

生活の場で課題を見出し、それを解決していくためには、誰もが主体となって対話できる場をつくること、そして課題解決への気づきや行動をみんなで一緒に考える環境を整えていくことが必要です。

2022年度のポイント

- 市民アンケート調査を実施。市民向けには1,371件、自治会長向けに195件の回答がありました。
- ひょうごアドプトでは40団体1,457名の方が、自分たちの生活する地域の美化に貢献しました。

関連事業

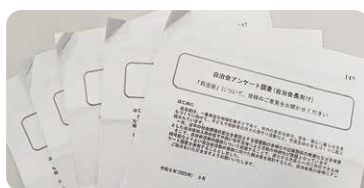
市民活動促進支援事業

NPO法人や地域活動団体からさまざまな相談を受けました。NPO法人からは運営相談や諸手続きの相談が多くありました。団体が社会に信頼されながら活動を継続できるよう支援を行い、市民活動団体と地縁団体などの協働が広がるよう心がけました。



市民アンケート調査

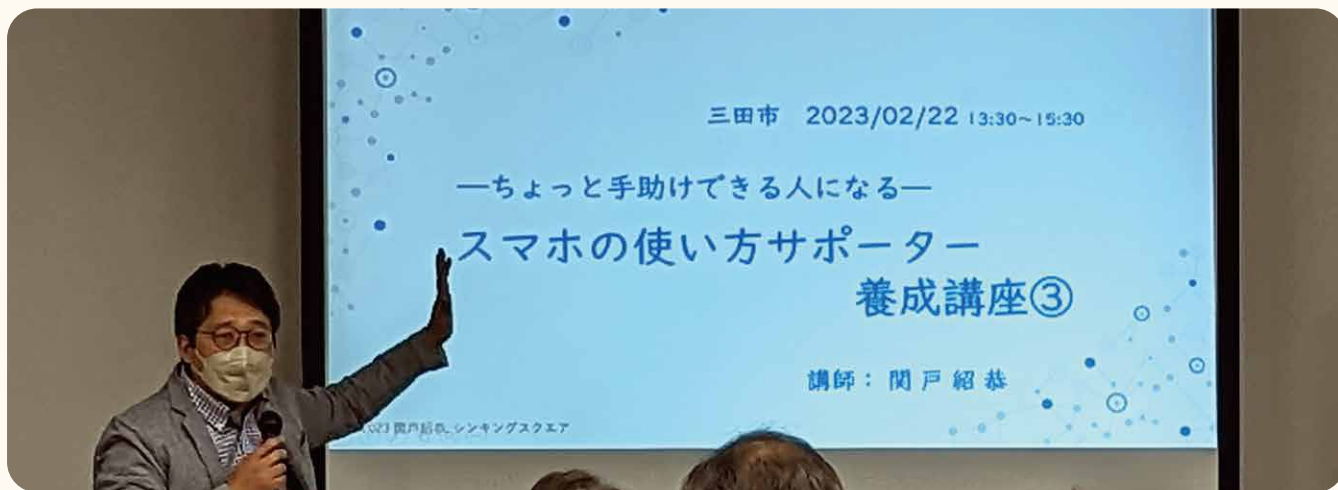
宝塚市は自治会活動の維持・活性化のため、宝塚市民と自治会長を対象にアンケート調査を実施しました。宝塚NPOセンターはネット上の回答受付フォームの作成と結果集計を行い、今後の地域活動の維持・発展に役立つよう支援しました。回答受付フォームはわかりやすさに配慮して作成し、市民向け1,371件、自治会長向け195件（回答率約70%）の回答がありました。



ひょうごアドプト活動促進業務

ひょうごアドプトは、県の管理する道路・河川・里山などを地域住民が自分たちの手で整備し、景観を維持する取り組みで、阪神北地域では40団体が参加しています。その活動を促進するために必要な資材や花苗などを提供しています。また、より良い活動を一緒に考え行動するため、『ひょうごアドプトを良くする会議』を2年ぶりに開催しました。





これからの地域参加

デジタル（ICT）の力を取り入れていくことにより、持続可能な活動につなげます。



女性の社会進出や定年の延長など、社会環境の変化による影響から地域活動・市民活動を続けるための方法や人材確保に無理が生じ始めています。そこで、担い手の負担軽減やデジタルが生活の一部になっている若い世代が参加しやすい環境を整える一つの方法として、デジタル（ICT）の力を取り込むことが必要になってきています。それを支えることで持続可能で参加しやすい活動につなげていきます。

2022年度のポイント

- 三田市シニアのデジタル化を活性化するために、シニアスマホサポーター20人が誕生しました。
- 各まちづくり協議会が自分たちの活動や地域の状況を見つめ直し、ICTの力で解消できる課題は何かを考え、デジタルツールの導入に取り組みました。

関連事業

市民活動促進支援事業

宝塚市がまちづくり協議会のデジタル化を推進するための補助制度を設けた2022年度は、各まちづくり協議会におけるICT化の課題の洗い出しや、デジタルツールの活用法を一緒に考え、支援しました。その結果、オンライン会議システムによる新しい参加の場づくりやWeb上の情報発信、SNSによる地域内コミュニケーション強化などにつながりました。



スマホサポーター養成講座

シニアがスマホを活用できるようになると生活に変化が生じます。シニア同士で教えあうことができるように、シニアスマホサポーターを20人養成しました。スマホ活用のためのノウハウを学んでもらい、忘れがちなアプリ導入時の設定なども振り返ってもらうことで「改めて理解し、教えることができる」など、活用に向けて前向きな言葉をもらいました。



コミュニティ・ビジネスICT活用促進事業

コロナの影響で停滞しがちだった市民活動をICTを通して活性化させるため、Zoomなどオンライン会議ツールやSNSの活用を促進しました。特に今年度は、LINEの講座が増え、市民活動団体に何度も足を運び説明することで、LINEを活用した交流などを進めることができました。また、オンラインを使ったイベントを行う団体の指導にも携わりました。







実施事業 2.

ハタラクをささえる



多様な人のはたらくを応援し社会とのつながりを深めます。
それにより、柔軟な働きかたができる地域や活気のある社会を広げ、みんなの
HAPPYを目指します。



宝塚ちどり 杉本さんに聞きました



社会福祉法人 晋栄福社会
宝塚ちどり 施設管理部長

すぎもと けい
杉本 圭さん

新卒で入職後『宝塚ちどり』一筋約17年。介護現場にICT化を導入するなどの業務改善を行い、積極的に若者と介護をつなぐべく日々奮闘されています。若者に敬遠されがちな介護という業種を他業種と肩を並べられるように、合同就職説明会にもご参加いただくなど直接若者に介護の仕事を知ってもらう活動を続けています。

宝塚ちどりと同じ法人の施設である『中山ちどり』を通じて宝塚地域若者サポートステーションとつながり、働くことに不安を抱えている若者が介護というお仕事を入口として社会に出るきっかけになればと思い連携を取るようになりました。これまでに数名の方が入職され、各々に合ったキャリアプランを立てステップアップしながら働いています。例えば、始めは無資格で短時間から働き、夜勤トレーニングを経て今ではフルタイムとして勤務している若者がいます。今後は介護福祉士取得を目標に日々頑張ってくれています。また、昨年行われた合同就職説明会にも参加し、それを機に職場見学から採用に至った若者もいます。日々成長を遂げている彼らをすぐそばで見守れることに、大きな喜びを感じています。

介護の仕事は「人手不足できつい」「賃金が安い」といったイメージが定着し、就労を希望する若者が少ない状況です。しかし現代の介護現場はICT化が進み、介護ロボットや見守りカメラなど若者にも働きやすい環境に変わってきています。今後多くさんの若者に介護の仕事を知ってもらえるよう連携を深めていきたいと思っています。



ファーストステップ

生活リズムを作り日常生活を整えることで、
健やかな心身を得て社会へ出るための準備を行います。



取り組み理由

コロナ禍での経済情勢や経営環境の悪化から徐々に回復しているものの、さまざまな問題を抱え、就労に向けて動き出せない方が多くいます。仕事への一歩を踏み出すには、生きていくための基礎を身に付ける必要があります。また働くことができず、社会との接点が少ない人は、他者との関わりも少ないため孤独を感じることもあります。

同じような気持ちの仲間を得る機会を設けることで、働くための自信を取り戻せるように取り組んでいます。

2022年度のポイント

- 就労部門における新規登録者数は184名。今年度も多くの方がファーストステップを踏み出しました。
- 朝活をスタートするなど、生活リズムを整えるサポートに力をいれました。

関連事業

地域若者サポートステーション事業

コロナ禍は落ち着き始めたものの、働くことに不安を抱えた若者は少なくありません。彼ら一人ひとりのペースに寄り添い、サポートをしました。働くための心と身体を健やかにし、生活リズムを整える朝活をスタート。また『ポジティブ思考を身に付けるコツ』という新しい講座も取り入れ、体力づくりや一歩前へ踏み出す心を身に付けました。



就労準備支援事業及び生活困窮者自立相談支援事業

まずは体調不良や昼夜逆転による一般的な生活とのズレを修正することから始めました。健康・体力面を整え、生活のリズムを改善するため身体を動かし、生活にメリハリをつけることを目的にウォーキングなど身体に働きかける講座を行いました。定期的に外出するきっかけづくりとして宝塚NPOセンターでのパソコンの自習も実施しました。



若者就労支援事業

学校卒業後や離職後に社会に出ることに躊躇している、また氷河期世代で就職機会を失ったままの方が多くいます。彼らが就労を目指し一歩踏み出すために、4ヶ月連続講座を行いました。参加者は決まった曜日・時間に講座へ参加することで日常生活を整え、スモールステップを踏みながら社会へ出るために必要な基礎力を身に付けていきました。





ジョブトレーニング

さまざまな仕事体験に挑戦することで、仕事のイメージをふくらませ、自分にあった仕事を探す取り組みです。



取り組み理由

ジョブトレーニングは社会へつながるきっかけづくりとしてとても重要です。働くことに躊躇している方には、ボランティア・職場見学・職場体験を通じて成長や自立を促し、自信を持って就職活動へ進んでいけるよう支援しています。また企業・団体・地域には参加者を受け入れていただくことで、いろいろな理由で働くことに不安を抱えている人がいることを知っていただいています。『人』と『社会』をつなぐ取り組みを通して、それぞれのありたい姿へ向かうためにサポートします。

2022年度のポイント

- 合同就職説明会はそれぞれの事業が連携して開催し、地域企業8社が参加しました。
- 自主事業として『Say!So!事業』を本格的にスタートさせました。

関連事業

地域若者サポートステーション事業

就職活動へ踏み出す準備ができた利用者は、次のステップであるさまざまな就労体験に参加し、誰かの役に立てることを学び、自信をつけました。また、それぞれの事業が連携した合同就職説明会では多くの方が参加され、会社見学、就職につながりました。ジョブトレーニングとして職場体験などの経験をしたからこそ、就職へ向かうことができました。



就労準備支援事業及び生活困窮者自立相談支援事業

日常生活習慣を身に付けてもコミュニケーション力に自信がない、働くイメージを持ってない相談者が一定数います。それぞれの事業が連携し、ボランティアや職業体験・企業説明会を行い、相談者が少しずつ自信をつけられるようにしました。また、地域の企業・団体とつながることで、多様な働きかたを提案し、人材不足解消の一助となりました。



Say!So! 事業

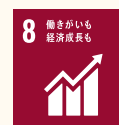
地域で社会貢献したいと考えているオーナーのマンションを、私たちが就労のサポートをしている方に清掃をしていただく事業です。マンション清掃員としての雇用創出の他にも、職業訓練としての活用やクリーンクルー（清掃員）が研修を行う『清掃体験』も行いました。クリーンクルーも自信が持てるようになり、次へのステップアップが可能になる場としています。





リスタート

連続講座や個別面談を通してきっかけをつくり、
さまざまな理由によって止まってしまった社会人生活を再始動できるよう支援します。



取り組み理由

長引くコロナ禍によって雇止めや解雇を強いられた若者や、育児や介護など家庭の事情により、やむを得ず社会から切り離されてしまった女性たち。「もう一度働きたい」「何かにチャレンジしたい」という想いを抱いていても、一人ではなかなか自信が持てず動き出せずにいる人たちが多くいます。

そんな彼らに連続講座でのスキルアップや地域連携を活用したさまざまな支援を通して、再び歩き出せるきっかけを掴んでもらえるようサポートしています。

2022年度のポイント

- MOS※資格取得講座では、MOS受験者は100%合格しました。
- シングルマザーハウスでは、キャリアカウンセリングを通じて経済的な自立に向けたサポートを行いました。

※MOS:Microsoft Office Specialist

関連事業

女性のための就労支援事業

なりたい自分になるために、スキルアップとしてPCのMOS資格取得講座を開催し、個別相談では寄り添い問題解決ができるように支援をしました。講座はICTを駆使し、リアルとオンラインの同時開催を実現しました。YouTubeも活用し、自宅学習にも取り組みやすいよう工夫した結果、受験者全員が合格されそれぞれのキャリアをリスタートさせることができました。

若者就労支援事業

4ヶ月間のプログラムを通し、受講者同士が互いに学びと交流を深めました。講座中に励ましあった15人の仲間とともにスモールステップを踏むことで、各自の目標を修了式までに見出せました。目標を発表する皆の表情と声が自信と勇気に満ち、新たな一歩を踏み出すきっかけとなりました。



シングルマザーハウス

シングルマザーハウスに転居すると同時に新しい仕事を見つける必要がある入居者に対して、入居後まもなくキャリアカウンセリングを行い、これからの生活を支える仕事を一緒に考えました。

その結果、就労を希望するすべての方が入居後1ヶ月以内に仕事を見つけ、経済的な自立に一步踏み出しました。

生きがいごととサポートセンター事業

子育てが落ち着いた方や、定年を迎え新しいライフステージにどう立てばいいか悩む方がいます。一方で、求人をして希望する人材を得られない地域の事業主がおられます。相談者とは面談を中心にセカンドキャリアの方向性を明らかにし、地域企業には採用に向けてアドバイスをしながら双方のマッチングを行い、雇用創出を行いました。



宝塚NPOセンターならではの事例紹介

シングルマザー支援に私たちのスキルを活かす

2022年10月に『シングルマザーハウスWith』がオープンしました。

築50年に近い古いアパートを全面的にリノベーションし、シングルマザーが安心して住める場所をと思い取り組みました。2023年3月には、全ての居室が満室となりました。入居された方々は日々の悩みはありつつも、お子さんを乗せた自転車でまちの中を颯爽と走りぬけています。



取り組み理由

2021年度に居住支援の事業をスタートさせましたが、住まいを借りることにさまざまな困難がある方が多いことに戸惑いました。困難とは、保証人がいない、緊急連絡先がない、子どもがいるために騒音問題が生じる、入居時に家賃の数ヶ月分の費用が必要になるなど。そこで、自分たち

が建物のオーナーになったならば、これらの入居時の困難を少しは軽減できるのではと思いました。その想いは休眠預金活用の助成制度により現実となり、これまで培った就労支援や地域とのネットワークにより、入居される方が安心して暮らせる場づくりに取り組むことが可能となりました。



今年度の成果

休眠預金活用助成が決定したのは2022年3月でした。助成決定額は申請していた助成金額より100万円ほど減額されたため、宝塚NPOセンターの支援者に寄付を募ったところ70余名の方々より100万円を超えるご寄付をいただきました。その頃、世間ではコロナ禍の影響による建築資材の価格高騰や納期の遅れなどの報道がありましたが、工事を請け負っていただいた建設会社のご厚意でそれらの影響もなく、9月には青と黄色がアクセントカラーになっている『シングルマザーハウスWith』ができあがりました。新聞各紙で取りあげていただき、記事を読まれた地域の事業者から『雇用の受け皿』の申し入れをいただくなど、皆さんの関心の大きさに身の引き締まる思いでした。

入居の問い合わせは、3月末までに全国から20件ありました。12月に鹿児島市から最初の入居者を迎え、1月には高槻市から、3月にもう1世帯の入居があり満室になりました。入居後すぐにキャリアコンサルタントが『キャリア相談』の時間を設け就労支援を行い、これまでのキャリアを活かして就職できたことで経済的な不安の軽減につながりました。

就労支援に加え、毎月1回1時間の面談を臨床心理士が実施しています。職場と自宅の往復や子育てで時間に追われる入居者

にとって、大人と1時間ゆっくり話すという時間は貴重なものになっているようです。また生活協同組合コープこうべ宝塚協同購入センターから、返品された食品や日用品を週1回引き取らせていただき、入居者に提供を行い大変喜ばれています。『With』を内覧した近所のシングルマザー2世帯にも食品を提供しており、『With』からシングルマザー支援が広がっています。キャリアや心理の支援を行うにつれ、入居者には心の安心が何よりも重要であると気づくには多くの時間は必要ありませんでした。相談時に話される生活や将来の不安に対し宝塚NPOセンター内でチームをつくって検討し、時には行政と情報を共有し見守る体制を整え対応しています。今後は私たちの新しいチャレンジから得たノウハウを社会と共有できるようにしていきたいと考えています。





株式会社秋山立花代表取締役
NPO法人全国ひとり親居住支援機構代表理事

あきやま れいじ
秋山 怜史さん



住宅や福祉施設の設計を手がける建築設計事務所を運営しながら、全国で初となるシングルマザー専用シェアハウスの企画運営に携わる。その後、全国の母子向けのハウス運営者を支援するために、ポータルサイト『マザーポート』を立ちあげて運営。NPO法人代表として母子ハウスの普及に努めている。

秋山怜史さんに聞きました

安心して安全で快適な住まいがなければ、何も始まりません。

シングルマザーが家を借りる。一見、何の問題もないように思えますが、現実には皆さんが思っている以上の困難を伴います。シングルマザーであるということだけで、とたんに家を借りることが難しくなるこの社会。おかしいと思いませんか。

家を借りることができないということは、保育園を探すことも、仕事を得ることも難しくなります。家というのは生活の基盤であり、なくてはならないもの。安心して安全で快適な住まいがなければ、何も始まりません。誰もが住まいに困ることのない社会。そんな社会が当たり前であって欲しい。だからこそ、シングルマザーのための住まいが必要なのです。

宝塚NPOセンターさんが運営する『シングルマザーハウスWith』は、冬のひだまりのような存在です。寒く身を震わせる空気の中でも、そこにいけば温もりと優しさを感じることができる。そんな場所です。家を探しているお母さんと子どもたちにとって『With』が存在しているということが、大きな安心につながります。開設後わずかな期間で満室になったことが、その確たる証拠です。

もちろん、家を確保することに困っているシングルマ

ザーはまだ多く、居住支援の網はその全てをカバーしているわけではありません。心ない人は焼石に水だと言うかもしれない。しかし、シングルマザーハウスがあることで、救われる人は確実に存在します。宝塚NPOセンターさんが『With』を運営していただいているということは、皆さんが思っている以上に、社会にとって、地域にとって、そしてシングルマザー世帯にとって、大きな意味を持っています。

シングルマザーの居住支援は、ただ家を提供すればよいという訳にはいきません。お母さんと子どもたちが抱えている課題に寄り添い、その解決に向けてともに考え、ともに動き、ともに自立を目指していく。まさに『With』が必要なのです。これからの宝塚NPOセンターさん、そして『With』の歩みを心から応援しています。



2023年度 特定非営利活動に係る事業計画

2023年4月1日～2024年3月31日

1. ツナガリとニギワイをつくる

人や物事を多方面から捉え、可能性を引き出すことで共に成長し、
楽しみながらやりたいことを実現できる社会を広げ、みんなのHAPPYを目指します。

	事業内容	実施目標
市民活動促進支援事業 [対象:宝塚市内の市民と 市民活動団体]	市民力のあふれるまちにするために ・特定非営利活動法人の起業・運営相談 ・市民活動団体等のコミュニティビジネス育成等の支援 ・補助金・助成金事業一覧Webサイトの更新、及び申請支援 誰もが参加できるまちづくりのために ・市民活動団体等のICT（デジタル化）活用支援 ・『宝塚市みんなのまちづくり協議会ポータルサイト』の運営 ・まちづくり協議会の情報発信支援 ・地域団体の課題解決につながるワークショップ等の実施 ・自治会の情報交換・課題解決に向けたワークショップの実施	通年 通年 通年 通年 通年 通年 1回 1回
地域しごと サポートセンター事業 [対象:兵庫県民]	ビジネスで地域課題に取り組み持続可能な地域をつくるために ・地域課題を整理・見える化するアンケート調査の実施 ・団体設立・起業支援 ・登録コンサルタントによる専門相談 ・地域しごと実践者セミナー 地域の中で力を発揮する「地域しごと」の支援のために ・就労相談・事業の仕分け・切り出し支援 ・多様で柔軟な働き方セミナー	約70団体 25団体 通年 1回 通年 1回
ひょうごアドプト促進業務 [対象:阪神北地域で アドプトに取り組む団体]	地域の景観を守る市民団体支援 ・アドプト団体活動支援	40団体 通年
シェアカフェ起業支援事業 [対象:シェアカフェ利用オーナー]	宝塚のにぎわいづくりと起業支援 ・起業し店舗運営するオーナー支援	通年
三田市創業支援と 地域活動支援事業 [対象:55歳以上の三田市民]	シニアによる地域活動と創業への学びのために ・さんだ生涯学習カレッジ研究科 創業支援コース／地域活動コースの連続セミナー開催	1講座 (1コース各12回)
居住支援事業 [対象者:宝塚市内の 居住支援を必要とするひと]	住まい探しが困難な方への住宅確保と安心感のある生活のために ・入居のための支援 ・入居後の就労支援・生活支援	通年 通年



2. ハタラクをささえる

多様な人のはたらくを応援し社会のつながりを深めます。

それにより、柔軟な働きかたができる地域や活気のある社会を広げ、みんなのHAPPYを目指します。

	事業内容	実施目標
地域若者サポート ステーション事業 [対象者：地域を問わず 就労を目指す15～49歳]	一人ひとりに寄り添うキャリア支援 ・キャリア相談（伊丹市役所での相談業務含む） ・キャリアセミナー開催（伊丹市でのキャリアセミナーを含む） ・体力づくり等の生活基盤を整えるセミナー ・在学生・新卒・既卒3年未満対象セミナー ・就職氷河期世代向け対象セミナー 地域とともにキャリア支援 ・地域企業や団体での職場体験 ・地域企業・団体・支援機関でのネットワーク構築 ・ミニ企業説明会 ・就労部門共同での合同就職説明会 ・ICTを活用した就労支援	新規登録者160人 就職決定者100人 12回 5回 5回 通年 40団体 5回 1回 通年
就労準備支援事業及び 生活困窮者自立相談支援事業 (就労支援) [対象：宝塚市民]	一人ひとりに寄り添うキャリア支援 ・キャリア相談 生活と働くことを一緒に考える支援 ・日常生活自立のための講座 ・社会生活自立のための講座 ・就労自立のための講座 地域とともにキャリア支援 ・地域企業や団体とのネットワークを活用した職場体験 ・ミニ面接会や交流会 ・就労部門共同での合同就職説明会 ・ICTを活用した就労支援	通年 50回 41回 10回 通年 2回 1回 通年
若者就労支援事業 [対象者：就労に課題を抱える 宝塚市内の15歳～49歳]	一人ひとりに適切な進路を導くキャリア支援 ・就労支援セミナー ・職場体験実習 ・キャリア相談	15回 通年 通年

3. ツナガリとニギワイ × ハタラク

これまで育んできたネットワークを用いながらセンター全体で知恵を寄せ合い、

新しい事業を社会に提案することで、宝塚NPOセンターらしさを大切にしながら、みんなのHAPPYを目指します。

	事業内容	実施目標
フードシェアリング事業 [対象者：市民の方々、 生活困窮者、ひとり親世帯]	地域の方とともに活動する食料支援・就職支援 ・食品の回収活動 ・配布会と相談会の実施 ・食品配布に伴う職場体験及びボランティア	年4回(回収期間：2週間/回) 年4回 年4回
母子ハウス [対象者：母子家庭]	ひとり親家庭が安心して暮らせる支援を様々な人々とつくるために ・入居者への就労支援と食料支援 ・子どもの居場所を様々な方々と検討 ・ひとり親に関わる関係者のネットワークづくり ・地域コミュニティとの協働による支援	通年 通年 通年 通年
Say!So!(清掃)事業 [対象：一般市民]	マンションの共有スペースの清掃×働く場を探しているひと ・清掃物件数 ・作業従事者の教育と就労支援 ・職場体験先としての講座開催	5件 5人 10回

2022年度 貸借対照表／活動計算書

貸借対照表 簡易版

2023年3月31日現在

(単位：円)

借方		決算額		貸方		決算額	
資産の部	I 流動資産			I 流動負債			
	現金・預金			預り金	617,210		
	現金	21,570		前受金	649,400		
	郵便貯金	5,786,916		仮受委託金	218,619		
	普通預金	11,629,992					
	定期預金	5,000,000		未払金	4,736,787		
	(現金・貯金合計)		22,438,478	未払法人税等	82,000		
	その他の資産			未払消費税等	2,085,200		
	未収入金	14,637,763		II 固定負債			
	前払費用	955,886		預かり保証金	369,000		
	(小 計)		15,593,649				
	(流動資産合計)		38,032,127	負債合計			8,758,216
	II 固定資産			正味財産の部			
	有形固定資産			前期繰越正味財産額	34,449,642		
	建物	14,899,238		当期正味財産増加額	18,138,394		
	建物附属設備	6,335,754		正味財産合計	52,588,036	52,588,036	
	有形固定資産計	21,234,992					
	無形固定資産						
	電話加入権	76,440					
	無形固定資産計	76,440					
	投資その他の資産						
	敷金	1,500,000					
	差入保証金	502,693					
	投資その他の資産計	2,002,693					
	固定資産合計		23,314,125				
	資産合計		61,346,252				
				負債及び正味財産合計			61,346,252

活動計算書 簡易版

2022年4月1日から2023年3月31日まで

(単位：円)

科 目		当 初 予 算	決 算 額
I	経常収益		
	1. 受取会費	1,050,000	940,850
	2. 受取寄付金	1,100,000	1,327,500
	3. 受取助成金等	29,555,000	30,581,529
	4. 事業収益	67,816,100	68,252,253
	5. その他収益	400,000	864,835
	経常収益計	99,921,100	101,966,967
II	経常費用		
	1. 事業費		
	(1) 人件費	52,492,232	52,123,775
	(2) その他経費	28,911,969	29,628,600
	事業費計	81,404,201	81,752,375
	2. 管理費		
	(1) 人件費	80,000	70,862
	(2) その他経費	885,000	1,907,181
	管理費計	965,000	1,978,043
	経常費用計	82,369,201	83,730,418
III	経常外収益		
	1 雑収益	0	0
	経常外収益計	0	0
IV	経常外費用		
	1 雑損失	0	16,155
	経常外費用計	0	16,155
	税引前当期正味財産増減額	17,551,899	18,220,394
	法人税等	82,000	82,000
	当期正味財産増減額	17,469,899	18,138,394
	前期繰越正味財産額	34,449,642	34,449,642
	当期正味財産合計	51,919,541	52,588,036

2023年度 活動予算書

活動予算書

2023年4月1日から2024年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当初予算
I 経常収益	
1. 受取会費	
正会員受取会費	500,000
賛助会員受取会費	600,000
2. 受取寄付金	500,000
3. 受取助成金等	7,250,000
4. 事業収益	62,116,768
5. その他収益	800,000
経常収益計	71,766,768
II 経常費用	
1. 事業費	
(1) 人件費	44,651,255
(2) その他経費	25,027,186
事業費計	69,678,441
2. 管理費	
(1) 人件費	60,000
(2) その他経費	542,000
管理費計	602,000
経常費用計	70,280,441
III 経常外費用	
1 雑損失	0
経常外費用計	0
税引前当期正味財産増減額	1,486,327
法人税等	82,000
当期正味財産増減額	1,404,327
前期繰越正味財産額	52,588,036
当期正味財産合計	53,992,363



2022年度 支えてくださった皆さん

2022年度 支えてくださった皆さん

法人会員 6団体

有限会社 目見田商事
株式会社 てらす
社会福祉法人 宝塚市社会福祉協議会
生活協同組合コープこうべ
医療法人回生会 宝塚病院
ソリオ宝塚都市開発株式会社

個人正会員 58名

清谷 緑
津川 明美
新田 ゆり
福田 未来
林 貴子
西中 優子
山田 歩
レイ 雅美
小西 由美子
五味 直美
田中 敦子
肥塚 真由美
神農 弘見
宗田 淑子
尾島 恵子
岩崎 奈美
寺谷 一枝
魏 玉衡
今井 弘道
西風 直美
佐々木 敏子
藤原 律子
戸川 沙也華
伊藤 麻美
夏山 真由美
林 慶子
原 有未
我妻 澄子
高山 咲花
轟木 裕子
喜多 毅
越知 昌賜
西井 進剛
九鬼 麻衣
田中 茂
中野 裕行
細谷 崇
内田 梓
三木 さくら
福島 達夫
橘田 てつ子
山添 令子
中山 光子
牧里 毎治
林 宏昭
倉橋 滋樹
鶴丸 悌二

遠座 俊明
佐藤 健二
山本 敬子
山田 忠生
井賀 英夫
若山 晴司
門 隆志
大槻 真由美
金 留美子
匿名 2名

団体会員 32団体

健康・生きがい就労ラボ
DAREDEMO HERO
ユーズ宝島
愛's さぼーと
宝塚市栄町西自治会
まちづくりの会すけっと
共生苑
兵庫空き家相談センター
コスモス
一般社団法人 宝塚まち遊び委員会
水道施設整備技術協議会
ほっと宝塚子育てネットワーク
川西市手をつなぐ育成会
宝塚市花のみち自治会
国際交流団体未来
エスリード宝塚自治会
ネパール・ヨードを支える会
宝塚園芸福祉協会
宅老所 光明の家
キッピーフレンズ
支援の会ひまわり
宝塚 NISITANI
市民活動フォーラムみのお
ソリオ宝塚自治会
めふのお家
一般社団法人 宝塚青年会議所
いきいきシニアゼミナール
えくぼ
宝塚投資塾自考庵
そら
日高共同作業所
兵庫虹の会

賛助会員 131名

黒滝 知佳子
平岩 伊佐子
福永 孝雄
中谷 敬子
加藤 幹子
松永 啓子
松本 立志
滝澤 実穂
櫻井 有香
千田 幸子

犬塚 秀樹
西崎 節子
山田 早弓
村川 建太郎
藤田 資
植村 好美
鈴木 祐未
中嶋 亜起
津堅 伸一
山口 三代子
山口 勝民
吉田 道呼
浅谷 亜紀
迫 久美子
村瀬 由美子
美濃 三環子
相田 悦子
副島 香織
秋澤 辰弥
今井 必生
疋田 智子
藤田 かおり
團 泰雄
竹内 志津香
西根 千鶴
高橋 章子
風早 寿郎
藤岡 和枝
細見 克行
村上 昌輝
高橋 由希
塔筋 幸造
高野 学
和泉 昌三
立川 文代
馬越 康弘
久世 直子
上坂 和子
飯室 裕文
工藤 圭子
かなべ自然学校
金岡 重子
松永 星子
宮脇 瑞穂
森本 樹
相田 英俊
小副川 久代
山口 耕平
永井 弘行
須藤 栄一
石橋 さなえ
東郷 寛
福岡 則博
彩都 ゆき

藤田 昭
 釣島 平三郎
 森田 義
 金谷 信子
 高松 泰子
 黒木 雅子
 新福 泰雅
 大橋 良子
 原 啓
 川口 章子
 川久保 雄介
 谷川原 宇子
 古田 時子
 木村 佳友
 車田 清美
 直田 春夫
 井上 芳子
 三戸 俊徳
 多胡 葉子
 山口 一史
 メイカーズクラブ
 宝塚料飲有限公司
 合同会社 アンドイー
 食を考える会 食文化研究所
 女性起業研究会 ESPACE
 大日ノ出プランニング
 いけはた電器
 ハンドクラフターズ株式会社
 C.U.P
 宝塚つ・む・ぐの家
 武庫が丘まちづくりビューロー
 株式会社 ビッグスタッフ
 中ゴウ社会保険労務士事務所
 友愛こぶし
 きらら
 さわやか三田
 相田文具店
 生命保険相談センター
 いたみ野良猫をふやさない会みゆう
 みゆう
 悠楽舎
 たんぼばルーム
 石堂 弥華子
 妹尾 勇太郎
 相田 未来
 相田 光一
 相田 悦子
 相田 真理
 ウイハラナ 理絵
 竹林 美咲
 西川 由希枝
 中西 志津子
 海野 順子
 田中 保子

寄付者 77名（物品寄付を含む）

山本 敏晴
 國井 実香
 森脇 やすと
 相田 こと子
 澁谷 富子
 小林 浩昭
 上田 健
 森田 かつ子
 庄野 達也
 正木 みつ子
 中山 竜一
 数田 牧
 匿名 1 名
 依谷 和代
 村井 和美
 有限会社 アクセスコーポレーション
 奥本電気株式会社
 岸本 瞳
 山本 貴栄
 逢坂 洋子
 西中 優子
 青木 幸治
 勢山 百合子
 田野 直美
 株式会社 ナビック
 平野 弥生
 西川 雅己
 西 準二
 株式会社 ランサ
 平岩 伊佐子
 多田 有紀
 佐原税理士事務所
 西 真紀子
 福永 孝雄
 メイカーズクラブ
 阪神シニアカレッジ同窓会
 西崎 節子
 藤田 資
 食を考える会 食文化研究所
 野末 勝
 小泉 登志代
 相田 未来
 相田 光一
 副島 香織
 秋澤 辰弥
 藤田 かおり
 C.U.P
 代継 規弘
 田中 茂
 塔筋 幸造
 中野 裕行
 細谷 崇
 立川 文代

馬越 康弘
 濱本 佳子
 久世 直子
 水道施設整備技術協議会
 三木 さくら
 飯室 裕文
 工藤 圭子
 大西 和昭
 金岡 重子
 中ゴウ社会保険労務士事務所
 金井塚 美根
 相田 英俊
 相田 こと子
 山口 耕平
 澁谷 富子
 橘田 てつ子
 生活協同組合コープこうべ
 石橋 さなえ
 中山 光子
 福岡 則博
 黒木 雅子
 鶴丸 悌二
 川久保 雄介
 直田 春夫
 三戸 俊徳
 多胡 葉子
 山口 一史
 山田 忠生
 IHOE「人と組織と地球のための国際研究所」
 國井 実香
 中山 竜一
 数田 牧
 匿名 5 名

（敬称略・順不同）

ご寄付について

25年間の寄付総額

40,733,382 円

2022年度の寄付金額

1,034,300 円

（2023年3月末時点）

私たちの活動は、皆さまに
 支えられています。詳しくは
 右側の二次元コード下記
 URLをご確認ください。



<https://hnpo.net/support/>

ボランティア

さまざまな角度や立場からのご意見と一緒に作業をする際の何気ない会話は、私たちに多くの気づきを与えてくれ、また新しい風を吹き込んでくれます。

普段の細かな事務作業から、宝塚NPOセンター主催イベントなどに、若者からシニアまで多くのボランティアの皆さんが関わっていただきました。

私たちにとって、ボランティアの皆さんは欠かすことのできない活動のパートナーです。今後も多くのボランティアの皆さんと共に、人が行き交う市民活動の交差点として活気あふれる宝塚NPOセンターを目指したいと考えています。

多くのサポート、ありがとうございました。

2022年度のボランティア時間

1,027時間

無償役務を換算すると

985,920円のご寄付に相当

職員

浅見 恵子
石堂 弥華子
石橋 さなえ
上田 明子
馬越 康弘
加藤 幹子

倉上 英治
鈴木 祐未
高瀬 梓
中野 裕行
中山 光子
西崎 節子

西中 優子
根岸 由美子
平岩 伊佐子
深田 英一
藤田 かおり
松尾 繁毅

松永 啓子
溝本 直人
山下 智子

2023年3月末現在 50音順



役員一覧

理事長	中山 光子	認定NPO法人 宝塚NPOセンター
副理事長	越知 昌賜	関西国際大学 非常勤講師
理事	西井 進剛	兵庫県立大学 経営研究科 教授
理事	福島 達夫	福島労務サポートオフィス
理事	細谷 崇	CoderDojo 西宮・梅田代表
理事	山添 令子	認定NPO法人 宝塚NPOセンター 会員
理事	足田 智子	軸ラボ
理事	西中 優子	認定NPO法人 宝塚NPOセンター
監事	遠座 俊明	大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究所
監事	中原 さくら	中原会計事務所

2023年3月末現在

関連Webサイト情報

 宝塚NPOセンター TAKARAZUKA NPO CENTER	https://hnpo.net 
宝塚地域若者サポートステーション	 https://zukasapo.hnpo.net/
 With	https://with.hnpo.net/ 
 はたらく応援センター TAKARAZUKA	 https://hataraku.hnpo.net/
	https://www.sharecafe-takarazuka.com 
	 https://seisou.hnpo.net/


zukanpo
 日々の活動は宝塚NPOセンターFacebookページにて公開しています。ぜひご覧ください。



認定NPO法人 宝塚NPOセンター 2022年度事業報告書

発行日：2023年6月 発行責任者：中山 光子

制作：浅見 恵子、高瀬 梓、根岸 由美子 デザイン：rashisa inc.

発行：認定NPO法人 宝塚NPOセンター（〒665-0845 宝塚市栄町2-1-1 ソリオ1-3F）

認定NPO法人

宝塚NPOセンター

TAKARAZUKA NPO CENTER

〒665-0845 宝塚市栄町 2-1-1 ソリオ 1-3F

TEL : 0797-85-7766 FAX : 0797-85-7799

Mail : zukanpo@hnpo.net URL : <https://hnpo.net>

